

女性同窓生エッセイ一期一会  
第5回 古谷由美子さん（82期）

1. 関東同窓会との最初の出会いやきっかけ

4年前、初めて関東同窓会の新年会に出席しました。ちょうど子育てが落ち着いて気持ちにも余裕がでてきた頃で、上田高校の事も懐かしく思うようになり、親友2人を誘って参加しました。

会の様子も分からない不安な気持ちで会場に着くと、偶然にも1つ上の先輩が受付をされていました。卒業後初の再会にもかかわらず、変わらない優しいお人柄のまま気さくに声をかけていただいて、とても嬉しかったです。

会では、仲間と語り合う諸先輩方の生き生きと楽しそうな様子が何より印象的で、初めて参加の私達もその輪に入れて頂き、様々な時間や場面が交差するととても不思議で幸せな経験でした。たまたま翌年が幹事年だった事もあり、今に至ってお手伝いをさせていただいております。

この同窓会参加がきっかけで、これまで疎遠だった同期や同級生との輪が広がっているの、躊躇しながらも一歩を踏み出して良かったと思っています。

2. 関東同窓会に想うこと期待すること

年代を超えて上田高校で繋がっているご縁を、改めて結んでくれる大切な会だと思います。

今はネットでも簡単に繋がる時代ですが、会って交流する良さを肌で感じられる会がこれからも続くようにと願っております。

3. 高校時代一番の思い出

年月とともに高校の記憶が遠ざかり、卒業後も付き合いの続く同級生達との会話の中から、当時の光景が甦ることが多くなりました。

授業中の「anyone?」が口癖だった担任教諭（英語科）のもと、16人いた女子がとても和気藹々としていたのは嬉しい記憶です。そして、「いとしのエリー」を歌った合唱コンクールや古い体育館でバトミントンを練習したスポーツ大会、新聞紙と格闘したアンデパンダン展の準備などなどクラス全体でまとまって共有した時間は、今思うと高校時代のかけがえの無いひとときだったように感じます。

4. ご自身の近況など

ここ2年はコロナ禍で家族で過ごす時間がとても増え、昨年からは子供達とゴルフを始めました。50半ばを過ぎて身体能力の低下は否めず、スクール通いの進歩は亀の歩みのごとく…ですが、いつか気持ち良く打てるようになりたいと思いながら練習に励んでいます。

医療の現場で働き、ストレスの多い生活が続いていますが、日日是好日、この制約ある日常の中にも小さな幸せを見つけています。



新年会講演会でリモート対応中  
(2022年1月22日(土) 日本教育会館にて)